



Learn More  
~Brahmin monk Bodhisena, the First Indian Come to Japan~

もつと知ろう、  
く日本に初めて来たインド人、  
婆羅門僧菩提僊那を継承するく



奈良時代、東大寺盧舎那仏像の開眼導師をつとめた菩提僊那僧が住した大安寺は当時国際的仏教総合大学の様相を呈していた



2015年インド大使館の協力のもと  
製作された菩提僊那座像

南都 大安寺

平成30年5月13日(日)

13:00-13:30 オープニングセレモニー Opening Ceremony

13:30-14:30 インド政府 ICCR 派遣 オリッシー舞踊 奉納公演

Odissi Dance sent by ICCR

会場：大安寺獅子吼殿ホール Daian-ji shishikuden Hall

入場無料先着順 / Admission FREE

共催：インド政府 ICCR、インド大使館、在大阪・神戸インド総領事館、NPO 日印交流を盛り上げる会

協力：大安寺（菩提僊那が住した寺）、霊山寺（菩提僊那の墓所がある寺）

後援：奈良県、奈良市、(公財)日印協会 助成：(公財)仏教伝道協会、(公財)内田エネルギー科学振興財団(申請中)

問合せ：在大阪・神戸インド総領事館 Tel.06-6261-7299、NPO 日印交流を盛り上げる会 Tel.025-752-2396



Odissi Dance group, sent by  
Indian Council for Cultural  
Relations (ICCR), New Delhi

出演

Ms. Sonali mohapatra -Dancer  
Ms. Anwesa Das -Dancer  
Mr. Satyaprakash Sahoo -Dancer  
Mr. Abhiram Nanda -Flute  
Mr. Sukanta kumar Kundu -Vocal  
Mr. Dhaneswar Swain -Mardal  
Mr. Pradeep kumar Ray -Violin

※プログラムは予告なく変更することがあります。The program is sometimes changed without notice.

ほだいせん な

## 東大寺の大仏開眼導師をつとめた菩提僊那と継承事業

菩提僊那は遣唐使の要請で仏教の教えを日本に伝えるため、一度は暴風雨に遭い引き返しましたが、天平8年(736年)5月18日に二度目の航海を経て太宰府に到着しました。菩提僊那は当時、東大寺と並び大寺院であった大安寺においてサンスクリット語をはじめ、仏教の教えを日本僧に伝え、天平勝宝3年(751年)には僧正という非常に高い位に就きました。

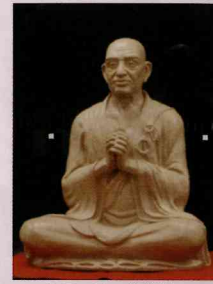
聖武天皇の詔により天平15年(745年)から現在地での建立が始まった東大寺盧舎那仏の開眼法会は、天平勝宝4年(752年)4月9日に執り行われました。菩提僊那は聖武上皇の勅書を受け、上皇の代わりに開眼導師をつとめました。開眼の筆には縹(はなだ)色の縷(る)(全長198m)が結ばれ、会場に集う人々がこの縷を手を持ち、開眼の瞬間に結縁しました。1万人を数える僧侶も参加したと伝えられます。

大仏を開眼した菩提僊那は、東大寺では大仏建立発願者である聖武天皇、大仏建立の歓進をした行基、東大寺初代別当の良弁と共に東大寺「四聖」と呼ばれ称えられています。

大仏を含め東大寺の建立には当時の日本の人口の半分ほどの人が延べで関わったと言われていいます。盛大な開眼の催事は現代と比較するならば、オリンピックの数十倍と言えるのではないのでしょうか。その導師をつとめたインド僧の生涯は、私たち現代人にとって大きな感動を与えます。

2012年、インド政府は日印国交樹立60周年の記念催事として、菩提僊那を1276年の時を経て継承しました。その後も毎年、インド大使館や東大寺にて開催して参りました。

Bodhisena is the first Indian monk to appear on Japan's written history and his contribution of serving as the Chief Priest at the Eye-Opening ceremony was significant. In 2012, Indian Government graced Bodhisena's achievement for the first time in 1276 years since his arrival to Japan by organizing an event. The event was carried out as one of the commemorative events celebrating the 60th Anniversary of India-Japan Diplomatic Relations. Every year, we have held the commemorative events at Todaiji Temple or at the Embassy of India, Tokyo.



ミティラー美術館  
菩提僊那像  
(グラスファイバー・3D)

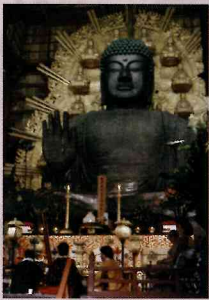
2015年にインド大使館の協力のもとインドで制作された。

菩提僊那継承事業に派遣されるインド舞踊団や音楽団とともにインド大使館をはじめ全国で公開されている。

毎年9月に東京・代々木公園で開催されるインド国外では最大規模のインドフェスティバル「ナマステ・インド」でも公開されました。



ナマステ・インド2017  
ステージにて菩提僊那像公開



2012年8月  
東大寺大仏殿にて  
ダブルパッド音楽奉納



2012年5月  
東大寺中門にて  
オリッシー舞踊奉納



2014年5月  
東大寺中門にてカタカリ舞踊奉納



2016年8月 東大寺中門にて  
北インド古典音楽&フュージョン奉納公演

## 大安寺と菩提僊那

聖徳太子が平群に建てた熊凝精舎がその草創といわれています。飛鳥の藤原京で百濟大寺、大官大寺となり奈良時代に現在の地に移り大安寺となりました。南都七大寺のひとつに数えられ、左京六条四坊から七条四坊にまたがる広大な寺域を占め、南大寺とも呼ばれて大安寺式の大伽藍を誇っていました。西の薬師寺に対峙する国家鎮護の寺でもありました。(奈良市観光協会HPより)

当時、海外の渡来僧も多く、インド僧菩提僊那、呪願師をした唐の道セン(どうせん)、さらに盛儀に華を添えたのは、林邑楽を披露した林邑僧(ベトナム)の仏哲でした。共に大安寺に居住し、生涯を日本で過ごした人々です。

その当時居住した数多の学僧は歴史に名を留める人物も多く、大安寺は仏教の国際総合大学の様相を呈していました。



大安寺歴代住侶供養碑

## オリッシー舞踊

オリッシーは、ベンガル湾に面したインド東部のオリッサ州に伝わる古典舞踊です。数多くあるインド舞踊の中でも、インド7大古典舞踊の一つとされ、インドを代表する舞踊です。1000年以上前から、寺院で伝えられてきた奉納舞を起源とし、古代インドの寺院彫刻が動き出したかのような、しなやかで叙情的な動きと複雑なリズムを刻むステップが、オリッシーの魅力となっています。

この舞踊の特徴は、重心をいずれかにかけることによる左右不均衡な姿勢をとるところにあります。膝・腰・首のところで折り曲げて作られる姿勢は「トリパンガ」とよばれますが、この姿勢は、オリッサ州の寺院にある女神の立像と同じスタイルで、このことからオリッシーは生きた彫刻とも呼ばれています。また、上半身の優雅な動きと力強い足のステップ、叙情的・耽美的な魅力に満ちています。

音楽は、シタール、タンプーラ、パッカワージ(北インドに普及している両面太鼓)、マダル(パッカワージと似ている両面太鼓)、パンスリー(北インドの竹笛)、マンジラ(金属製のシンバル)などの楽器が演奏されます。

